

令和4年度 血液事業概要

あゆみ

第72号 令和5年8月



日本赤十字社 群馬県赤十字血液センター
Japanese Red Cross Society

目次

所長あいさつ	2
令和4年度 新聞記事	4
沿革	6
組織体制	14
献血の概況	16
献血推進の概況	18
骨髄ドナー登録事業	21
検査・製剤の概況	22
供給の概況	24
医薬情報活動の概況	25
統計資料	26
令和4年度 表彰	32
令和4年度迄の献血記録	34

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様をはじめ、献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の皆様にはご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、令和4年度においても多くの皆様に献血へのご協力をいただき、県内の医療機関からの血液製剤の要請に滞りなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

さて、私は4月1日から群馬県赤十字血液センター所長に就任いたしました。3月末までは群馬県立小児医療センターに17年間勤務し、最後の5年間は院長を務めておりました。小児医療センター在職中は血液センターには大変お世話になりました。

小児医療センターは県内の小児三次医療と周産期医療を担う小児専門病院で、重い疾患を持つ小児や妊産婦さんが多く入院されています。小児集中治療室・新生児集中治療室においては血漿交換、人工心肺、交換輸血、血液浄化等の高度な医療が実践され、多くの血液を必要といたします。また、私の専門としていた白血病を中心とした血液疾患、小児がん患者の治療には、洗浄血液製剤、HLA一致血小板製剤等の特殊な血液製剤を必要とします。血液センターから届けられる血液製剤が、いかに大切かを身に染みて感じておりました。今後は血液製剤を供給する側として、県内の医療に貢献したいと考えております。

令和2年3月から始まった新型コロナウイルス感染症は血液事業に対して大きな影響を及ぼしました。献血ルームにおいては厳重なコロナウイルス感染対策の実施が求められました。また、献血バスにおいては十分な献血者数の確保が困難となり、急遽ショッピングモールへ献血バスを向かわせる等の対策で必要とされる血液確保に努めて参りました。

今日、血液事業が抱えている大きな問題は、日本における急速に進む少子高齢化のため若年層の献血者数が減少を続けていることが挙げられます。若年献血者数を増やすための方策が必須であり、当センターにおきましても様々な事業を実施しております。年少児に対する「親子献血教室」、中学生・高校生を対象とした「献血セミナー」開催、献血アプリへのプレ登録等を積極的に実施しております。

医療機関への血液製剤の供給におきましては、要望に適切に対応できるよう血液の確保に努めると同時に、最新情報の提供に努め、適正使用の推進を図って参ります。

今後とも職員一同、なお一層の取り組みを進め、安全な血液製剤の安定供給と献血者の安全確保に向けて努力して参ります。皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年4月

群馬県赤十字血液センター

所長 外 松 学

アイオー信金が
伊勢崎本店などで
コロナ下の献血活動を
支援しようと、アイオー
信用金庫（長谷川淳一理
事長）は、伊勢崎市の同
信金本店などで職員らに
献血を呼びかけ、50人が
協力した。写真。
本店に献血バスを招い
たほか、前橋、太田市
では、支店職員が地元
の献血ルームに出向いた。
回信金では「信用金庫
の日」（6月15日）の記
念行事に合わせて献血に

職員50人が献血協力



協力してきたが、昨年か
らコロナ下の社会貢献活
動として単独で実施して
おり、今回は4回目とな
る。
（霜村浩）

上毛新聞 令和4年6月3日(金)

献血への理解を
深め、将来協力し
てもらうと、県
赤十字血液センターは3
日、第12回夏休み親子献
血教室を前橋市の同セン
ターで開いた。写真。小
学生と保護者計約20人が
見学や体験を通じてその
役割を学んだ。
同センターの職員が献
血の必要性や血液が患者
（湯沢宏志）

献血の役割 親子で学ぶ

保管庫見学や模擬体験



上毛新聞 令和4年8月4日(木)

バス受け入れ
血液確保協力
家電量販店最大手の
ヤマダホールディング
ス（D、高崎市栄町、
山田昇社長）は、ヤマ
ダデンキ店舗で献血バ
スの受け入れを始め
る。駐車場を献血会場
として提供し、新型コ
ロナウイルス感染拡大
で不足傾向にある血液
の確保に協力する。
県内で試験的に始
め、全国に広げていく。
家電住まいる館YAM
ADAみどり店（みど
り市笠懸町阿左美）で
7月末、初めてバスを
入れる。

ヤマダ店舗で献血を



ヤマダHDが受け入れを始める
献血バス

同センターによる
と、足元の感染急拡大
で血液確保が難しくな
っている。関東甲信越
地域の7月の献血量
は、20日までは計画比
102%で推移してい
たが、28日時点で99・
8%に低下した。
ヤマダHDは「社会
課題に対してできるこ
とを協力したい。取り
組みを通じて献血が不
足していることを知っ
てほしい」としている。
（丸山卓郎）

上毛新聞 令和4年8月19日(金)



▽「献血とロック」をテーマにしたイベント「ドラキュラックフェスタ」の県内初公演が17日、邑楽町中央公民館で始まった。県内外の13組がバワフルなステージを披露し、来場者に献血を呼びかけた。写真。

▽主催する「スペースデモン」こと鈴木則昭さん、栃木県主町のバンド「ブラック・ダイヤモンド」などが次々と演奏し、会場を盛り上げた。屋外で県赤十字血液センターの献血バスが待機し、協力する来場者が乗り込んだ。

▽音楽を通して献血を推進しようと、日赤栃木県支部の協力で2015年5月に始まった。北関東を中心に開催し今回で32回目。鈴木さんは「群馬でも地元の手と聞きたい」と話した。ステージは18日も午前10時から行う。入場無料。

(正田哲雄)

上毛新聞 令和4年9月18日(日)

大学生サンタ 献血呼びかけ

伊勢崎 ようと県学生献血推進連盟(鈴木俊代表)は18日、伊勢崎市のスマーク伊勢崎で「クリスマス献血キャンペーン」を開き、市民に献血を呼びかけた。サンタクロースの赤い帽子をかぶった大学生ら3人が、手製のボードを持って「患者さんのために献血をお願いします」となどという物書きを掛け、献血の大切さを訴えた。共愛学園前橋国際大3年の鈴木代表は「血液は人工的に作れない。多くの人に協力してもらいたい」と訴えた。

冬季には献血をする人が少なくなることから、輸血用の血液を確保するため、



献血への協力を呼びかける学生

全国学生献血推進連盟の活動の一環として行った。県赤十字血液センターによると県内では現在、A型、O型の血液在庫が特に少なくなっているという。

(三浦愛子)

上毛新聞 令和4年12月19日(月)

90人が献血活動に協力



太田 社会貢献活動の一環として、太田市野球連盟(長山博会長)は20日、市宝泉行政センターで共同の献血活動を行った。

連盟に所属する宇都宮野球チームの関係者や地域住民ら約90人が訪れた。同センター内で問診を済ませた後、計4台のバスで献血した。写真。

日ごろの感謝の気持ちを示そうと十数年前から行っている。茂木会長は「献血する大人の姿を見て、子どもたちにも感謝の気持ちを持ってもらいたい」と話した。

(時田菜月)

上毛新聞 令和5年1月30日(月)

200人が献血協力

県損保代理業協会



前橋 県損害保険代理業協会(内田聡会長)は3日、前橋市の前橋センタービルで献血を行い、同協会関係者や県内の保険会社社員ら約200人が協

力した。写真。

同協会は県内に本店を置く損害保険代理店など5支部208会員で構成。2002年から社会貢献活動の一環で献血協力を続けており、4、12日に高崎市の高崎駅献血ルームハーモニーで、3月3日に太田市の東京海上日動ビルでそれぞれ献血に協力する。

内田会長は「会員の中で献血協力が定着してきた。今後も続けたい」と話した。

県赤十字血液センターの担当者も同協会に感謝しつつ「新型コロナウイルスの第8波の影響で献血協力者が減り、厳しい状況が続いている」として協力を呼びかけた。

(栗原綾菜)

上毛新聞 令和5年2月4日(土)

沿革

●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群策第9472号）
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第1号（2ベッド）を整備
愛称を県民より募集し「（おおとね号）」と決まる
ABO式血液型（オモテ・ウラ）Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おおとね2号（3ベッド）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おおとね3号（2ベッド）を整

備（採血車3台となる）

- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おおとね1号（3ベッド）を整備（採血車3台となる）

●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おおとね2号（4ベッド）を更新（40年整備）

●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おおとね3号（4ベッド）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車1台寄贈

●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車

- 1 台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとおね5号（5ベッド）を整備（採血車4台となる）

●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1台寄贈

●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）
生化学的検査結果全員通知を開始
- 8.27 移動採血車おとおね1号（4ベッド）を更新（47年整備）
- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける
- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始
- 7.24 移動採血車おとおね3号（4ベッド）を更新（50年整備）
- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）

- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止
- 7.30 移動採血車おとおね6号（4ベッド）を整備（採血車5台となる）

●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）
第3代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員2名設置
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA6008NよりACA8000へ）
- 9.12 移動採血車おとおね2号（4ベッド）を更新（48年整備）
- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備
- 10. 1 HTLV- I 抗体検査開始（PA法）
- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）
- 11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始
- 12.18 血液検査（血算）サービス開始
- 12.23 移動採血車おとおね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成
- 10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更
- 10. 7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000

沿革

システム整備)

5. 1 献血者自己申告制度(HIV)開始

9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ
コロナ(大鵬号)1台寄贈

●1989年(平成元年)

1. 8 移動採血車おとおね5号(5ベッド)を更新(54年整備)

2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ(神戸号)1台寄贈

3.15 成分採血装置CS3000整備

3.31 登録・パーソナルコンピュータ(NEC 5200)整備

12.27 HCV抗体検査(ELISA法)、HBc抗体(HI法)開始

●1990年(平成2年)

3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備

5.21 オープン献血実施

6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハイエース1台寄贈

10. 8 移動採血車(おとおね6号)成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始

12. 1 コンピュータトータルシステム(NEC)整備

12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車(コースタービッグバン)整備

●1991年(平成3年)

3.11 成分採血装置NDP整備

4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる(50万L)

9.16 4週6休制施行実施

9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成

12.25 群馬県骨髓データセンター業務開始

●1992年(平成4年)

1.21 赤血球M・A・P(日赤)製造許可を受ける

1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更

3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始(クロスエイトM250、500、1000)

6. HCV陽性者通知開始(通知基準による)

12. 3 赤血球M・A・P(日赤)製造開始

12.19 移動採血車おとおね1号(4ベッド)を更新(57年整備)

●1993年(平成5年)

2. 1 新登録者カード発行

4. 1 群馬県輸血懇話会設立

5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備

10. 1 高崎出張所を設置(高崎熱血倶楽部)イーストタワービル1階に開設

10.15 移動採血車おとおね7号(4ベッド)を廃車(採血車5台となる)

●1994年(平成6年)

2.27 群馬県献血フェスティバル開催(伊勢崎市民文化会館)

3.28 4週8休制度施行実施

5.18 血液X線放射線照射装置(MRB-1520A-TV)整備し依頼による照射血液供給を開始

7. 生化学自動分析装置 機種変更(ACA8000より日立7250へ)

9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム(NEC)整備

成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備

11. 7 移動採血車おとおね3号(4ベッド)を更新(59年整備)

●1995年(平成7年)

6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

●1996年(平成8年)

3.28 検診車の整備

4. 1 第4代所長に松山四郎就任

第3代所長藤井佐司名誉所長に就任

6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車スバル インプレッサ1台寄贈

9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始

9. 3 採血番号ラベルシート(IDカード)10桁に変更

9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成

10. 出庫可否判定における検査履歴照会開始

11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車三菱 レグナム1台寄贈

●1997年(平成9年)

1.30 移動採血車(お年玉付郵便葉書寄付金)おとおね6号(4ベッド)を更新(60年整備)

3.13 移動採血車おとおね2号(4ベッド)を更新(61年整備)

4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正(2部1データセンター9課1出張所17係)改組

9. ヒトバロウイルスB19抗原検査の評価

試験開始

- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置（MBR-1520A-TM）を追加整備（2機となる）

●1998年（平成10年）

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休2日制実施
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始（全血、赤血球M・A・P、濃厚血小板）
- 9. 1 前橋出張所（前橋ハートランド）大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始（洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血）

●1999年（平成11年）

- 1.26 沖電気工業より保冷库付血液運搬車寄贈
日産 AD マックスバン保冷库付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈（創立20周年記念）
- 9. 1 核酸増幅検査（NAT）開始

●2000年（平成12年）

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修（供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設）、一部増築
- 3.17 ヒトパルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける（28日まで）

8.28 血液センター増築及び改修工事開始

- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセII
- 11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

●2001年（平成13年）

- 2. 移動採血車おとね9号（4ベッド）整備（採血車7台となる）
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡）となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

●2002年（平成14年）

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
日産 ウイングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おとね5号（5ベッド）を廃車（採血車6台となる）
- 12.31 移動採血車おとね1号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）

●2003年（平成15年）

- 4. 1 HBc抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHBc抗体検査陽性者全員に通知を開始
- 6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工（81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡）となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施（梅毒・HBV・HCV及びHIV）
- 10. 1 高崎出張所（高崎熱血倶楽部）10周年記念式典

沿革

12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

●2006年（平成18年）

- 3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 3.17 「複数回献血クラブ」の開始
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運

搬車 スバル フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈

- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
- 10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施
- 3. 3 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グルー

プロ及びHIV-2の検出も可能)

●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとね3号（4ベッド）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとね2号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通算1ヶ月以上」（31日以上）に緩和
- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間（180日間）貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony（JR高崎駅東口3階イーサイト内）業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス（8項目）を200mL全血献血へ拡充開始

●2011年（平成23年）

- 2.15 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッ



高崎駅献血ルームHarmony

- ド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 7 移動採血車おとね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計5回）
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より〔平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）〕委託を受託（9.1実施）
- 11.23 第3回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2012年（平成24年）

- 4. 1 広域事業運営体制の開始（1部 1データセンター 6課3出張所 19係）改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体（C.O.I.）1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



沿革

●2013年（平成25年）

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備（タブレット型PC端末5式）
- 3.25 災害救護資材配備（雨衣・防寒着）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。
3つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）
- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了
- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）

●2016年（平成28年）

- 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
- 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
- 3.30 移動採血車おとね9号を廃車
- 4. 1 ALT検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌Yell創刊
- 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
- 11.23 第8回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12.16 災害救護資機材配備（スチールラック）

●2017年（平成29年）

- 2.27 血小板採血調整システム稼働
- 2.28 災害救護資材配備（トラベルバッグ）
- 3.20 第2回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 3.22 災害救護資材配備（ヘルメット）
- 3.24 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更



前橋献血ルーム

- 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車
スバル インプレッサ 1台寄贈
- 11.18 全社統合情報システム導入
- 11.26 第9回献血感謝デー開催（於 けやき
ウォーク前橋）
- 12.19 災害救護資材配備（テント）
- 2018年（平成30年）
 - 2.21 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.21 第3回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
 - 4. 1 第10代所長に丸山 健一就任
 - 10.29 「複数回献血クラブ」が献血Webサービス
「ラブラッド」へとリニューアル
 - 11.25 所長感謝状贈呈式開催（於 けやきウォー
ク前橋）
 - 12. 6 災害救護機材配備（スポットエアコン2台、
ダクト2本）
- 2019年（平成31年、令和元年）
 - 1. 6 第10回献血感謝デー開催（於 けやき
ウォーク前橋）
 - 2.19 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.21 第4回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
 - 10.24 第11回献血感謝デー（於 けやきウォー
ク前橋）
 - 12.17 災害救護機材配備（大判インクジェットプ
リンター）
- 2020年（令和2年）
 - 3.25 災害救護資材配備（非常食）
 - 4. 1 移動採血車おおとね1号（4ベッド）を更新
 - 4. 1 移動採血車おおとね3号（4ベッド）を更新
 - 8. 5 HEVの個別NATスクリーニング導入
 - 9.30 災害救護資材配備（ヤマハ発動機一式）
 - 10. 1 採血前検査における指先穿刺導入（移動採
血車）
 - 11.12 AKB48 Team8「群馬県代表」清水麻璃亜
さん群馬県献血推進ガールに就任
- 2021年（令和3年）
 - 2.10 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.12 災害救護資材配備（非常食）
- 2022年（令和4年）
 - 1.24 採血前検査（全血採血のみ）における指先
穿刺導入（県内各出張所）
 - 2. 3 災害救護機材配備（特定小電力トランシー
バー）
 - 2.16 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.25 輸血用血液製剤への添付文書の同梱廃止
 - 8. 2 災害救護資材配備（ポータブル電源2台）
 - 9.28 献血Web会員サービス「ラブラッド」の
アプリ化による受付業務のデジタル化運用
開始
- 2023年（令和5年）
 - 2.15 災害救護資材配備（非常食）
 - 3.15 赤血球液-LR「日赤」の有効期間延長（28
日間）

組織体制

群馬県赤十字血液センター



- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

高崎駅献血ルームHarmony

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58㎡
- ベッド数 11ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

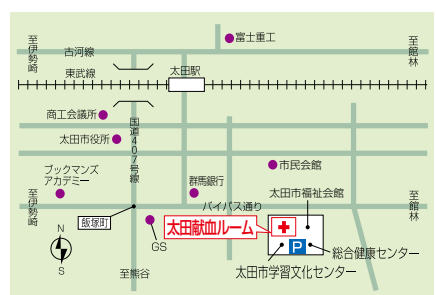


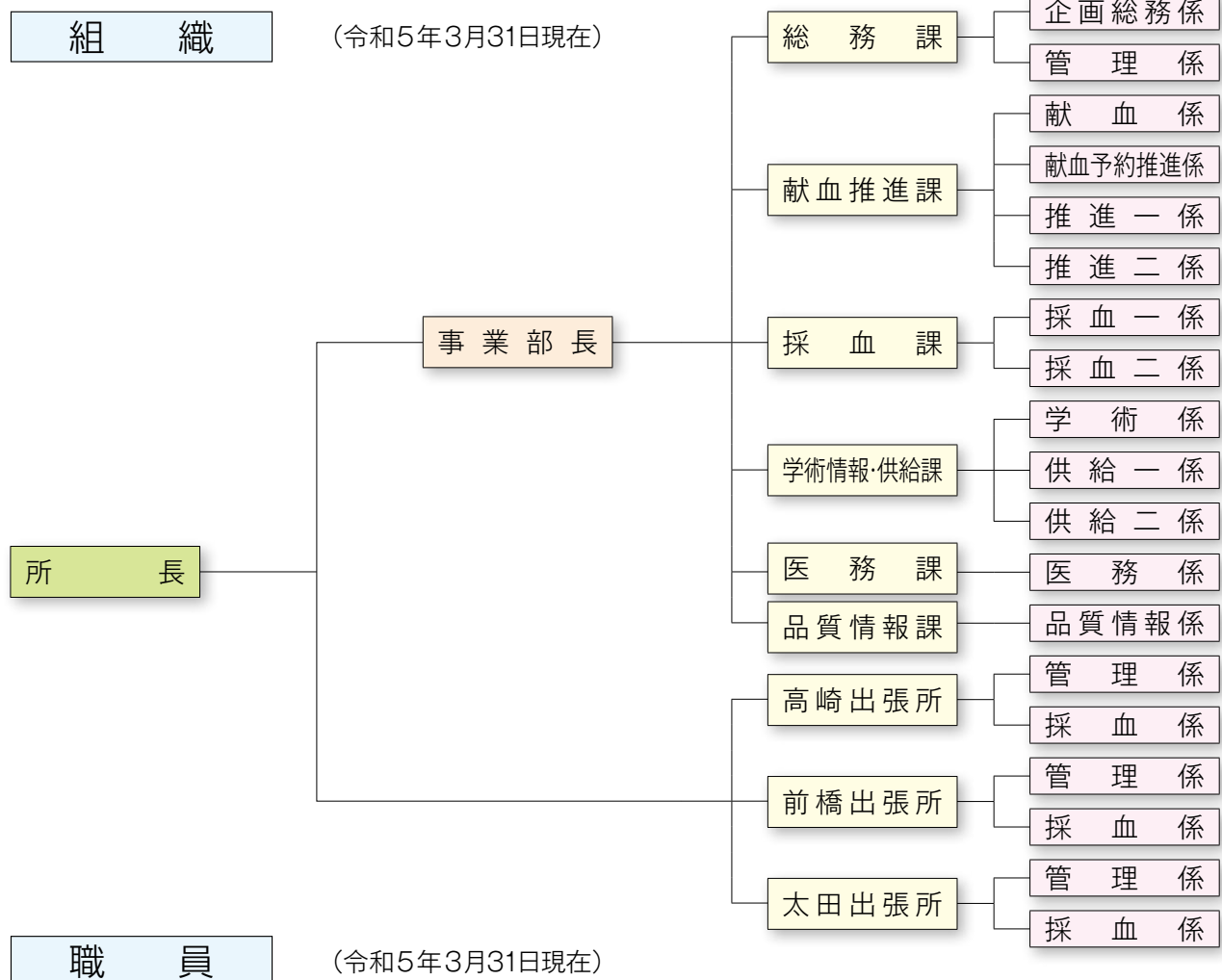
太田献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 396㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



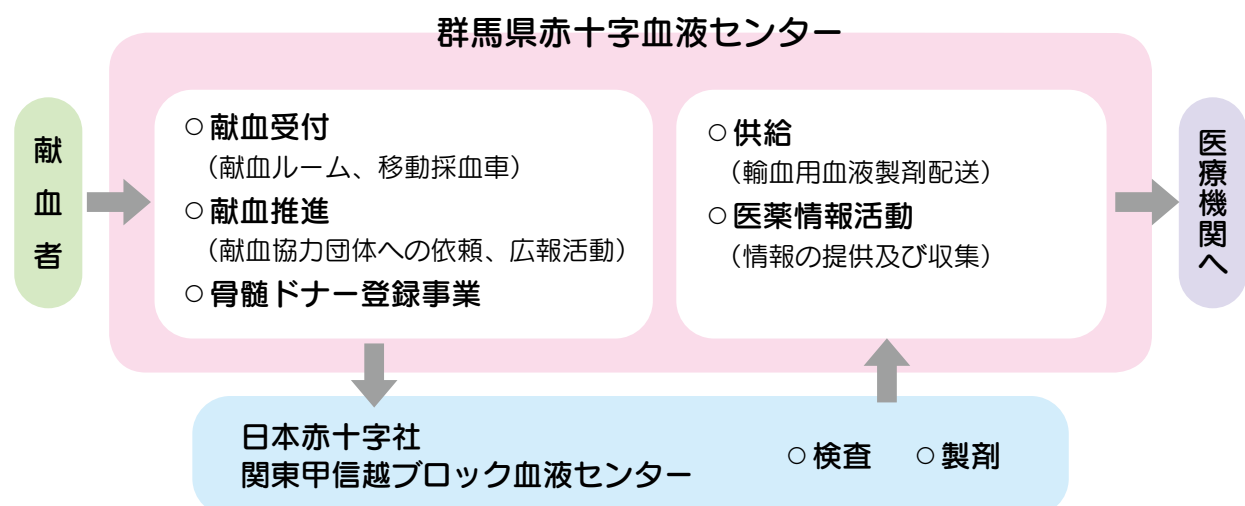
〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300





医 師	薬 剤 師	看 護 師	事務職員	合 計
1	2	29	55	87

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

令和4年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い首都圏の献血者数が減少したことから、群馬県では計画数以上の献血者確保が求められました。

コロナ禍における、新しい生活様式に伴い、学域・職域等のオンライン授業やテレワークの普及により献血者の減少が懸念されましたが、県内で延べ90,760名の献血協力をいただき、おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。また、血漿分画製剤用血漿の確保にも努めることが出来ました。

令和4年度の受付者数は 98,778名（前年度比97.7%）、献血者数は 90,760名（前年度比97.4%）でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 60,262名（前年度比99.4%）、成分献血者数 30,498名（前年度比93.6%）でした。全血献血者数のうち400mL献血者数は 56,619名（前年度比99.6%）、200mL献血者数は 3,643名（前年度比97.2%）でした。200mL献血を1単位として換算すると 116,881単位（前年比99.5%）の確保をすることができました。また、全血献血中の400mL献血構成比は94.0%（前年比0.2%増）でした。

一方、成分献血においては、血小板成分献血者数は 11,512名（前年度比89.5%）、血漿成分献血者数は 18,986名（前年度比96.3%）でした。

令和4年度の献血推進対策として「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血協賛企業の増加」、「複数回献血者（ラブラッド会員）の促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、AKB48 Team8清水麻璃亜さんとの協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行うことができました。

今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルームHarmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口イーサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

363日開設：受付者数 21,435名

献血者数 19,707名（1日平均献血者数54.3名、施設別構成比21.7%）

献血種類別では全血献血者数が8,813名（構成比44.7%）、内400mL献血者8,544名（400mL献血率96.9%）成分献血者数が10,894名（構成比55.3%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また、平成27年2月にロビーをリニューアル、更に、令和3年2月にソファの貼り替えを行い、暖かい陽が降りそそぐ森の中に居るようなイメージに生まれ変わりました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数 17,502名

献血者数 16,276名（1日平均献血者数44.8名、施設別構成比17.9%）

献血種類別では全血献血者が6,591名（構成比40.5%）内400mL献血者6,421名（400mL献血率97.4%）成分献血者数が9,685名（構成比59.5%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は、太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、平成14年4月10日に開設いたしました。県内一の広さを誇り、全国的に珍しい単独平屋建ての施設です。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に倣い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

364日開設：受付者数 18,631名

献血者数 17,411名（1日平均献血者数47.8名、施設別構成比19.2%）

献血種類別では全血献血者が7,492名（構成比43.0%）、内400mL献血者7,373名（400mL献血率98.4%）
成分献血者が9,919名（構成比57.0%）

2 移動採血車

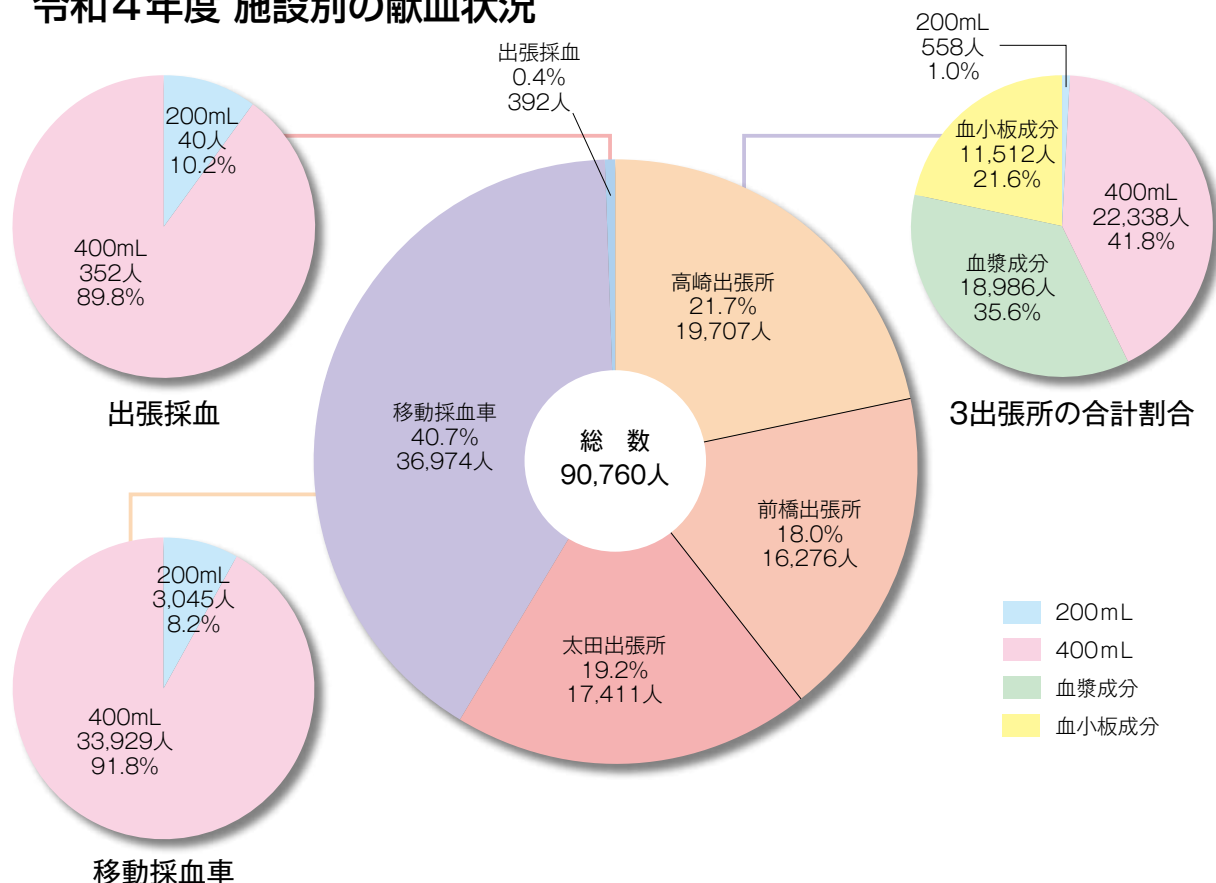
全血献血者の受入れを主として4台の移動採血バスで運用をしています。延べ789台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は40,770名 献血者数は36,974名（1台平均46.9名）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は91.8%で前年度比100.0%となりました。

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大に伴う学域・職域会場での献血の中止が秋口から相次ぎ、代替会場として地域・街頭会場での協力を得て計画数確保に努めました。

3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、7会場で行いました。受付者数は440名、献血者数は392名でした。

令和4年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. 献血推進ポスター

「群馬県献血推進ガール」

AKB48 Team 8 群馬県代表 清水 麻璃亜さん



2. 第12回夏休み親子献血教室

日程 令和4年8月3日（水）

会場 群馬県赤十字血液センター

内容 血液や献血についての学習、献血バスでの献血模擬体験、血液保存庫の見学、血液運搬車の試乗



3. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

日程 令和4年12月18日(日)

会場 スマーク伊勢崎

内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを進呈

主催 群馬県学生献血推進連盟



4. 広報誌 ぐんまの赤十字

年1回発行



5. SNSによる情報発信

群馬県赤十字血液センター公式Facebook



FacebookID 100063535059694

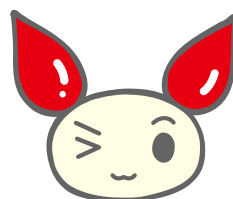
群馬県赤十字血液センター公式Twitter



@gunmakenketsu

献血Web会員サービス「ラブラッド」について

平成18年3月、より安全性の高い血液を安定的に確保していくことを目的に、携帯電話やパソコンのEメールを利用した「複数回献血クラブ」が全国一斉にスタートしました。そして平成30年10月のリニューアルとともに、愛称名を「ラブラッド」と全国で統一しました。



ラブラッドに会員登録していただくと、血液の検査結果等を含む献血記録が献血後数日で確認できるほか、献血協力や予約等に応じてポイントが貯まり、一定のポイント数で記念品と交換できます。また、住所やメールアドレス等の登録者情報もラブラッド上で変更が可能です。さらに、令和4年9月にはスマートフォン用アプリがリリースされ、「アプリ版献血カード」や「事前Web問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。「プレ会員」とは献血可能年齢未満の方、献血未経験の方を対象とした会員制度です。プレ会員は献血に関するコンテンツの閲覧やクイズに答えることでポイントを貯めることができるほか、献血可能年齢までのカウントダウンがアプリ上に表示されます。献血を経験したことのない若い方々がプレ会員を通して早くから献血に触れることで、将来の若年層献血協力が期待されます。（※プレ会員の登録にはラブラッドアプリのダウンロードが必要です。ブラウザ版ラブラッドでは対応しておりません。）

また、ラブラッドでは全国の献血会場（一部を除く）の献血をWebやアプリで予約できます。予約機能については会員登録をしなくても利用することができるほか、献血が初めての方もラブラッド上から予約のうえ事前に献血者情報の入力が可能です。

ラブラッド会員の皆様には、メール・LINEの配信を通して献血へのご協力をお願いしています。特に献血バスは日々県内の様々な場所で献血を行っているため、ご協力いただく企業の皆様や市町村献血においては近隣の皆様に情報発信を行っています。また、血液の不足時や医療機関から緊急の要請があった場合にも即時に情報発信ができるため、献血者と患者を繋ぐ救命のネットワークとしてラブラッドの重要性は年々高まっています。その他にも県内の献血ルームや献血バスのキャンペーン・イベント情報のお知らせなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとしても活用しています。

令和4年度は献血依頼・要請およびキャンペーン等の情報を延べ849,689件配信し、26,964名（応諾率3.2%）の方に献血のご協力をいただきました。

今後も継続的に会員数増加に努めるとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

ラブラッド会員数 57,985名
ラブラッドプレ会員数 499名（令和5年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄ドナー登録を推進しています。

令和4年度、群馬県内の新規骨髄ドナー登録者数は700名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）での登録は555名でした。

令和4年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	7	4	3	6	6	3	2	2	3	3	8	4	51
前橋献血ルーム	4	6	1	3	7	4	4	2	1	4	5	4	45
太田献血ルーム	1	4	3	5	6	4	4	2	3	6	2	9	49
献血併行型登録会	25	21	22	60	80	61	26	55	43	37	71	54	555
合 計	37	35	29	74	99	72	36	61	50	50	86	71	700

令和4年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	39	35	28	27	30	21	29	30	41	36	34	27	377

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：10,548人 〔921,966人〕

実登録者数： 6,565人 〔544,305人〕

登録取消者数： 3,983人 〔377,661人〕

令和5年3月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

○前橋献血ルーム	}	〔受付時間〕	10：00～12：00
○高崎駅献血ルーム Harmony			14：00～17：00
○太田献血ルーム		〔休業日〕	年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ学術情報・供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m²
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m²

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東甲信越8都県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県及び東京都の一部）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査、HLA検査(一部)
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、E型肝炎ウイルス検査、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、147件の要請がありました。

献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日を以って販売中止となりました。

令和4年度の総供給数は80,453本で、前年度に対しては392本増加（前年度比100.5%）しました。

供給単位数では293,034単位で、前年度※に対しては6,937単位増加（前年度比102.4%）しました。

※比較のため前年度の血漿製剤単位を平成29年度からの単位換算に変更して算出

1. 血小板製剤

供給単位数は157,320単位で、前年度に対して7,255単位増加（前年度比104.8%）でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は53.7%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比99.7%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

2. 血漿製剤

供給単位数※は33,252単位で、前年度に対して237単位減少（前年度比99.3%）でした。

全国的な需要傾向（全国平均前年比99.9%）に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

※平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数※は102,462単位で、前年度に対して81単位減少（前年度比99.9%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比100.5%）に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

※200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

令和4年度は供給がありませんでした。



医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報・供給課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に輸血関連看護師会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。輸血実態調査については昨年度に引き続き外来輸血をテーマに調査を行い、第17回群馬県合同輸血療法委員会では、その調査結果の報告や「医療機関における廃棄削減の取り組み」、輸血関連看護師会で作成した「外来輸血パンフレット」について県内医療機関から発表して頂きました。ほかに昨年度実施した厚生労働省 血液製剤使用適正化方策研究事業「Google Formを用いた外来輸血後副反応調査」について調査結果を報告しました。また、血液製剤の適正使用を推進する活動として、委員会による医療機関訪問とオンラインライブ配信による学術講演会（岡山大学病院 輸血部 看護師 高木尚江先生による「安心をめざした外来輸血体制の構築ー臨床輸血看護師にできることー」）を行いました。



医療関係者への情報提供



医療機関での輸血勉強会

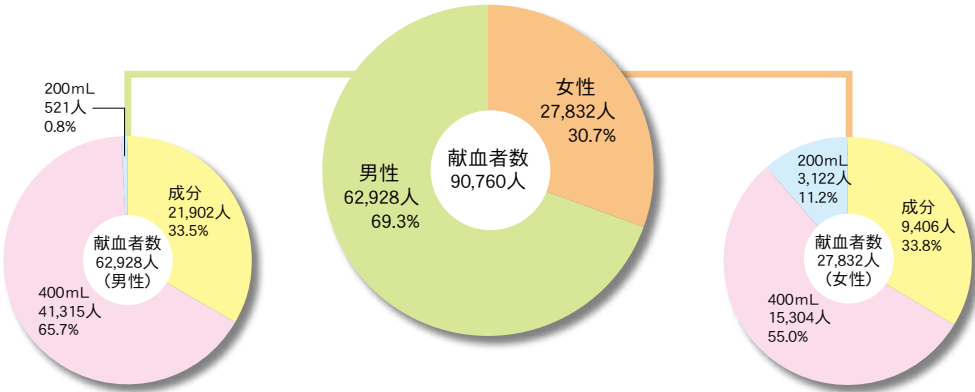


群馬県合同輸血療法委員会

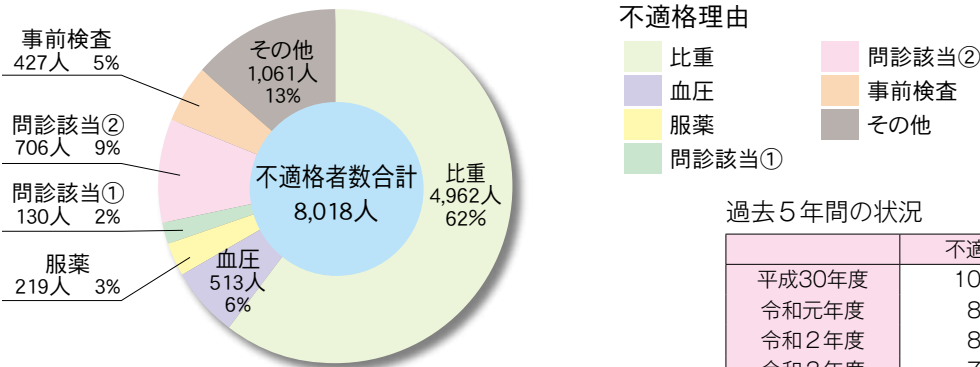
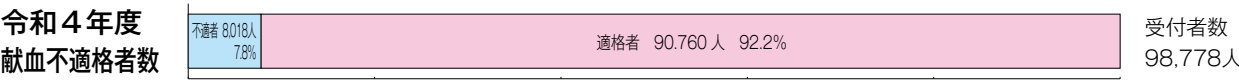
統計資料

令和4年度 献血状況

項目	献血ルーム		採血車		出張		計			
	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
令和4年度計	57,568	53,394	40,770	36,974	440	392	98,778	90,760	62,928	27,832
		30,498		0		0		30,498	21,092	9,406
		22,338		33,929		352		56,619	41,315	15,304
		558		3,045		40		3,643	521	3,122



献血出来なかった人の状況



過去5年間の状況	
	不適格率
平成30年度	10.8%
令和元年度	8.6%
令和2年度	8.1%
令和3年度	7.8%
令和4年度	8.1%

- 比 重 … 血液比重又は血色素量が採血基準を満たさない場合
- 血 圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合
- 服 薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合
- 問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴
- 問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調不良、海外帰国後4週間以内等）
- 事前検査 … 血算・心電図・検尿、体温（37.5℃以上）、脈拍数等で不適格の場合
- その他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不適格の場合

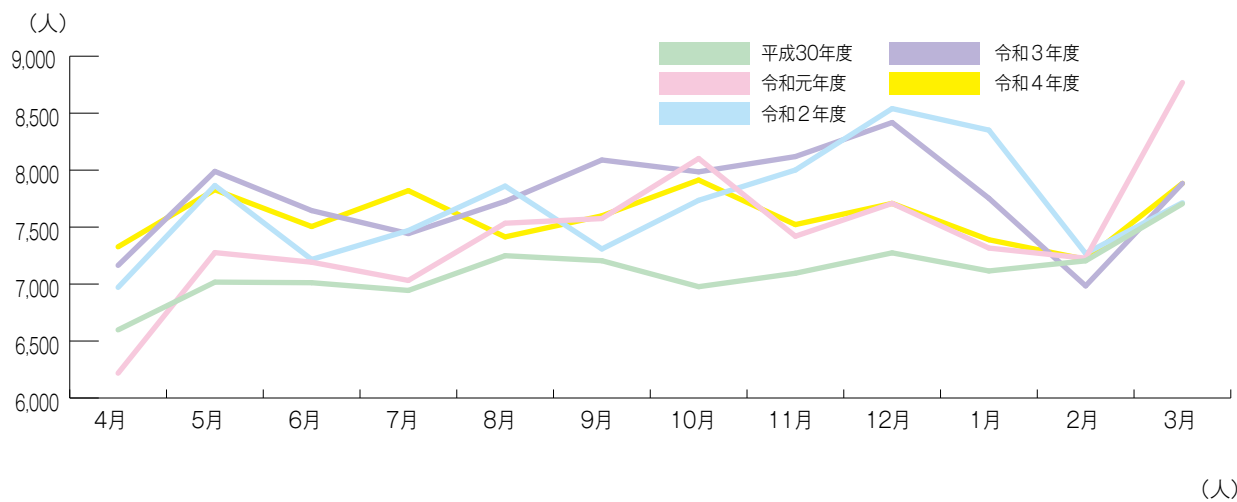
不適格理由	比 重	血 圧	服 薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合 計
男	1,033	354	150	69	383	272	427	2,688
女	3,929	159	69	61	323	155	634	5,330
合 計	4,962	513	219	130	706	427	1,061	8,018

令和4年度 市町村別献血者数

	人 口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率(%) (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合 計	1,906,290	98,778	3,643	56,619	60,262	11,512	18,986	30,498	90,760	4.8%
前橋ルーム		17,502	170	6,421	6,591	4,099	5,586	9,685	16,276	
高崎ルーム		21,435	269	8,544	8,813	3,560	7,334	10,894	19,707	
太田ルーム		18,631	119	7,373	7,492	3,853	6,066	9,919	17,411	
管内 合計		41,210	3,085	34,281	37,366	0	0	0	37,366	
前橋市	328,034	9,044	645	7,477	8,122	0	0	0	8,122	2.5%
前橋市保健所管内 計	328,034	9,044	645	7,477	8,122	0	0	0	8,122	2.5%
高崎市	369,472	7,097	802	5,555	6,357	0	0	0	6,357	1.7%
高崎市保健所管内 計	369,472	7,097	802	5,555	6,357	0	0	0	6,357	1.7%
渋川市	72,339	1,618	219	1,294	1,513	0	0	0	1,513	2.1%
榛東村	14,184	522	8	489	497	0	0	0	497	3.5%
吉岡町	22,401	879	13	775	788	0	0	0	788	3.5%
保健福祉事務所管内 計	108,924	3,019	240	2,558	2,798	0	0	0	2,798	2.6%
伊勢崎市	210,691	6,048	135	5,348	5,483	0	0	0	5,483	2.6%
玉村町	35,652	617	21	544	565	0	0	0	565	1.6%
保健福祉事務所管内 計	246,343	6,665	156	5,892	6,048	0	0	0	6,048	2.5%
安中市	53,163	943	36	823	859	0	0	0	859	1.6%
保健福祉事務所管内 計	53,163	943	36	823	859	0	0	0	859	1.6%
藤岡市	61,582	1,264	84	1,078	1,162	0	0	0	1,162	1.9%
上野村	1,043	36	3	31	34	0	0	0	34	3.3%
神流町	1,526	57	6	43	49	0	0	0	49	3.2%
保健福祉事務所管内 計	64,151	1,357	93	1,152	1,245	0	0	0	1,245	1.9%
富岡市	45,931	1,305	57	1,133	1,190	0	0	0	1,190	2.6%
下仁田町	6,054	94	7	79	86	0	0	0	86	1.4%
南牧村	1,448	16	0	16	16	0	0	0	16	1.1%
甘楽町	12,067	102	10	76	86	0	0	0	86	0.7%
保健福祉事務所管内 計	65,500	1,517	74	1,304	1,378	0	0	0	1,378	2.1%
中之条町	14,688	245	14	216	230	0	0	0	230	1.6%
長野原町	4,952	65	4	58	62	0	0	0	62	1.3%
嬬恋村	8,443	159	5	149	154	0	0	0	154	1.8%
草津町	5,859	82	4	75	79	0	0	0	79	1.3%
高山村	3,174	28	1	23	24	0	0	0	24	0.8%
東吾妻町	11,991	498	17	436	453	0	0	0	453	3.8%
保健福祉事務所管内 計	49,107	1,077	45	957	1,002	0	0	0	1,002	2.0%
沼田市	43,649	1,127	123	914	1,037	0	0	0	1,037	2.4%
片品村	3,754	88	6	77	83	0	0	0	83	2.2%
川場村	3,349	139	10	113	123	0	0	0	123	3.7%
昭和村	6,708	108	8	87	95	0	0	0	95	1.4%
みなかみ町	16,367	495	17	431	448	0	0	0	448	2.7%
保健福祉事務所管内 計	73,827	1,957	164	1,622	1,786	0	0	0	1,786	2.4%
太田市	221,175	3,497	278	2,901	3,179	0	0	0	3,179	1.4%
保健福祉事務所管内 計	221,175	3,497	278	2,901	3,179	0	0	0	3,179	1.4%
桐生市	102,018	2,053	322	1,555	1,877	0	0	0	1,877	1.8%
みどり市	48,678	572	21	495	516	0	0	0	516	1.1%
保健福祉事務所管内 計	150,696	2,625	343	2,050	2,393	0	0	0	2,393	1.6%
館林市	74,131	1,172	126	941	1,067	0	0	0	1,067	1.4%
板倉町	13,612	215	28	168	196	0	0	0	196	1.4%
明和町	10,583	116	15	92	107	0	0	0	107	1.0%
千代田町	10,605	312	3	284	287	0	0	0	287	2.7%
大泉町	41,862	384	27	329	356	0	0	0	356	0.9%
邑楽町	25,105	213	10	176	186	0	0	0	186	0.7%
保健福祉事務所管内 計	175,898	2,412	209	1,990	2,199	0	0	0	2,199	1.3%

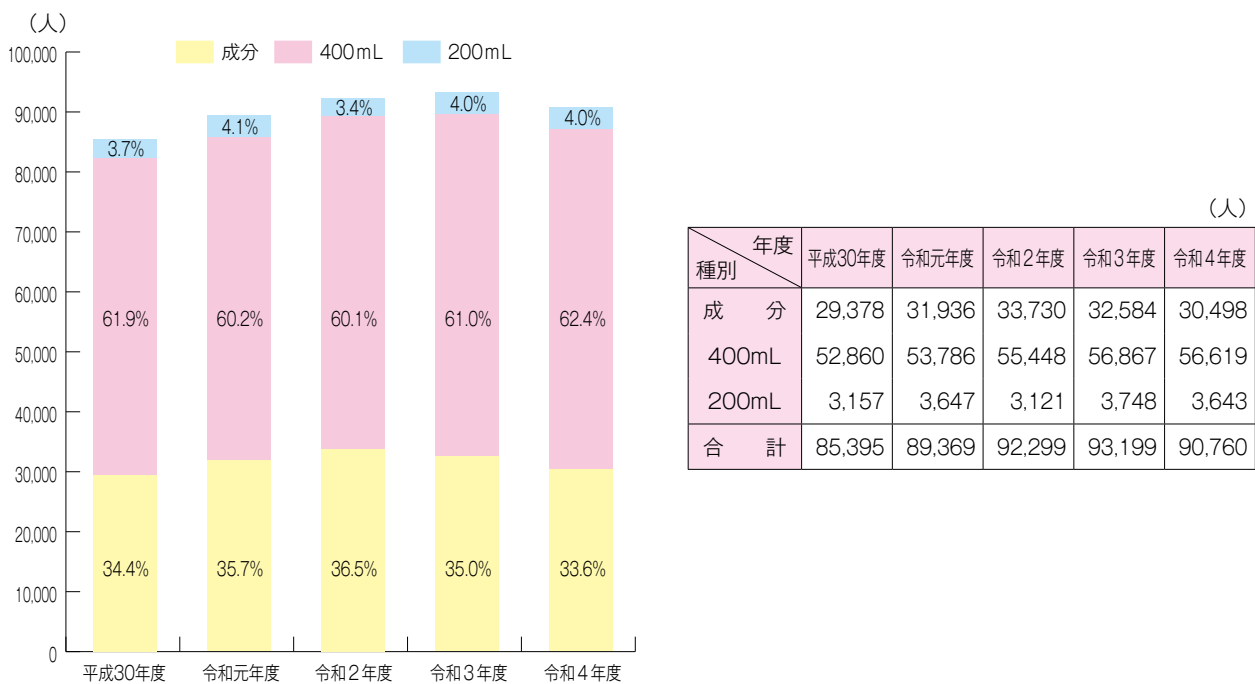
人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」令和5年3月1日現在

過去5年間の月別献血状況

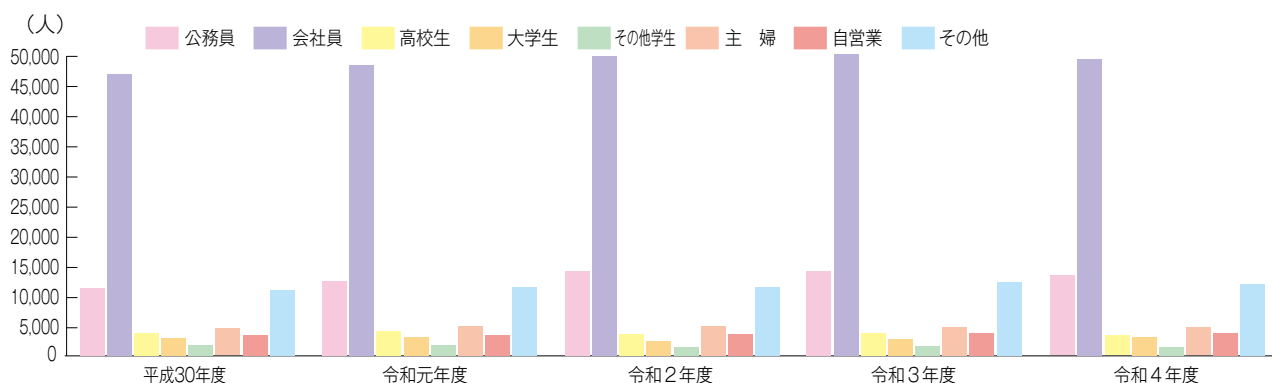


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別 月平均
平成30年度	6,598	7,017	7,012	6,944	7,249	7,205	6,977	7,095	7,274	7,115	7,204	7,705	85,395	7,116
令和元年度	6,218	7,276	7,192	7,032	7,534	7,575	8,102	7,420	7,708	7,316	7,227	8,769	89,369	7,447
令和2年度	6,971	7,865	7,216	7,470	7,860	7,308	7,735	8,001	8,540	8,351	7,268	7,714	92,299	7,692
令和3年度	7,164	7,989	7,645	7,443	7,726	8,089	7,985	8,119	8,418	7,753	6,984	7,884	93,199	7,767
令和4年度	7,327	7,828	7,505	7,820	7,414	7,599	7,913	7,522	7,708	7,389	7,217	7,518	90,760	7,594
月別平均	6,856	7,595	7,314	7,342	7,557	7,555	7,742	7,631	7,930	7,585	7,180	7,918		

過去5年間の採血別献血者状況

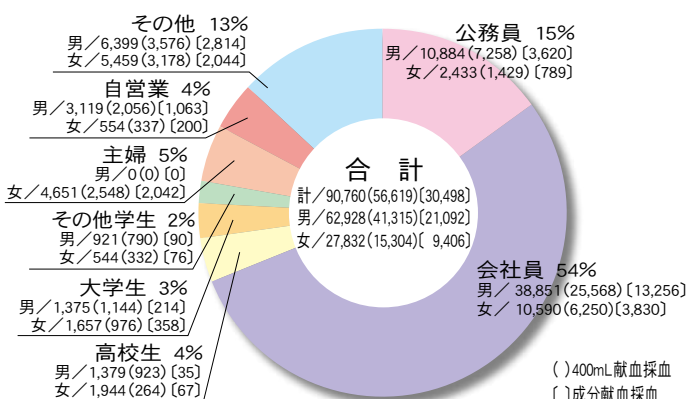


過去5年間の職業別献血者状況

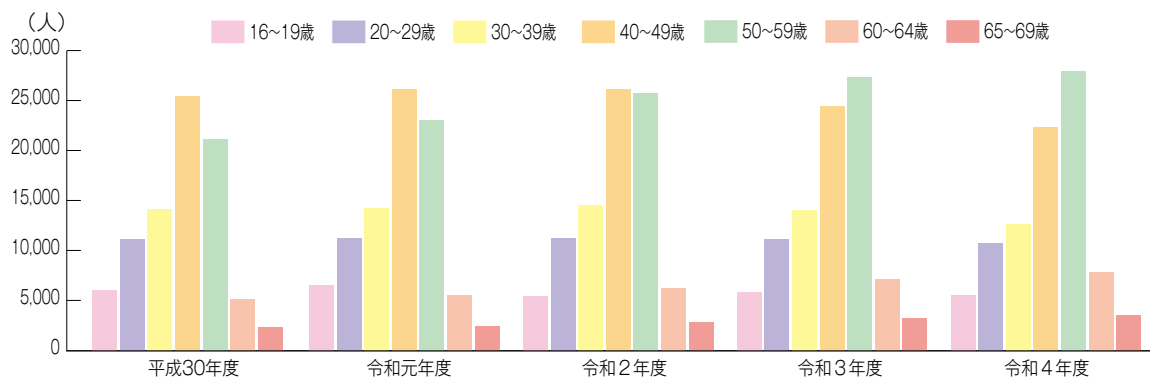


令和4年度職業別献血者数

職業別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公務員	11,302	12,382	14,055	14,067	13,317
会社員	46,990	48,481	49,913	50,204	49,441
高校生	3,700	4,114	3,601	3,691	3,323
大学生	2,891	3,037	2,465	2,819	3,032
その他学生	1,697	1,692	1,491	1,522	1,465
主婦	4,496	4,843	4,860	4,803	4,651
自営業	3,407	3,414	3,577	3,805	3,673
その他	10,912	11,406	12,337	12,288	11,858
合計	85,395	89,369	92,299	93,199	90,760

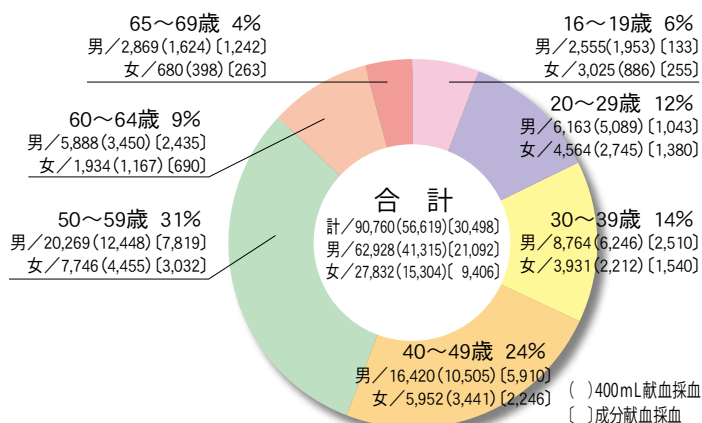


過去5年間の年齢別献血者状況



令和4年度年齢別献血者数

年齢別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
16~19歳	6,027	6,528	5,460	5,851	5,580
20~29歳	11,148	11,222	11,293	11,127	10,727
30~39歳	14,147	14,297	14,562	14,038	12,695
40~49歳	25,476	26,146	26,071	24,472	22,372
50~59歳	21,127	23,094	25,732	27,348	28,015
60~64歳	5,141	5,597	6,296	7,138	7,822
65~69歳※	2,329	2,485	2,885	3,225	3,549
合計	85,395	89,369	92,299	93,199	90,760



※平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
全血製剤	人全血液-LR「日赤」	WB-LR-1	0	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
	照射人全血液-LR「日赤」	Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合 計		0	0	0	0	0

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
赤血球製剤	赤血球液-LR「日赤」	RBC-LR-1	0	0	0	0	0
		RBC-LR-2	705	621	393	136	1,855
	照射赤血球液-LR「日赤」	Ir-RBC-LR-1	953	755	518	203	2,429
		Ir-RBC-LR-2	17,699	15,038	10,285	5,110	48,132
	洗浄赤血球液-LR「日赤」	WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射洗浄赤血球液-LR「日赤」	Ir-WRC-LR-1	8	11	0	0	19
		Ir-WRC-LR-2	2	10	5	2	19
	解凍赤血球液-LR「日赤」	FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射解凍赤血球液-LR「日赤」	Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	合成血液-LR「日赤」	BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
	照射合成血液-LR「日赤」	Ir-BET-LR-1	0	2	0	0	2
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
	合 計		19,367	16,437	11,201	5,451	52,456

* 平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

(単位：本)

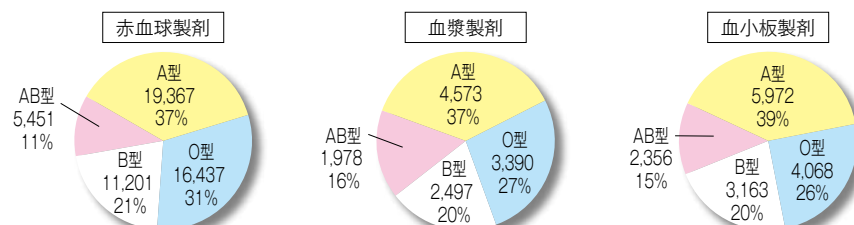
	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR 120	38	20	13	3	74
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR 240	2,867	2,288	1,654	1,330	8,375
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR 480	1,668	1,082	830	645	4,125
	合 計		4,573	3,390	2,497	1,978	12,438

* 平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
血小板製剤	濃厚血小板-LR「日赤」	PC-LR-1	0	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	136	44	33	27	240
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板-LR「日赤」	Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	13	16	1	1	31
		Ir-PC-LR-10	5,421	3,838	3,024	2,188	14,471
		Ir-PC-LR-15	2	4	0	2	8
		Ir-PC-LR-20	84	47	22	24	177
	濃厚血小板HLA-LR「日赤」	PC-HLA-LR-10	0	1	0	0	1
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR-10	209	28	79	109	425
		Ir-PC-HLA-LR-15	5	0	2	0	7
		Ir-PC-HLA-LR-20	4	0	0	0	4
	照射洗浄血小板-LR「日赤」	Ir-WPC-LR	97	90	2	5	194
	照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」	Ir-WPC-HLA-LR	1	0	0	0	1
	合 計		5,972	4,068	3,163	2,356	15,559

* 平成28年9月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」供給開始

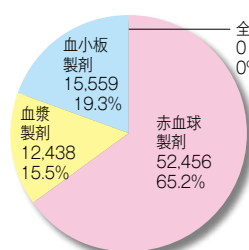


血液製剤種類別供給数(管内)

(単位：本)

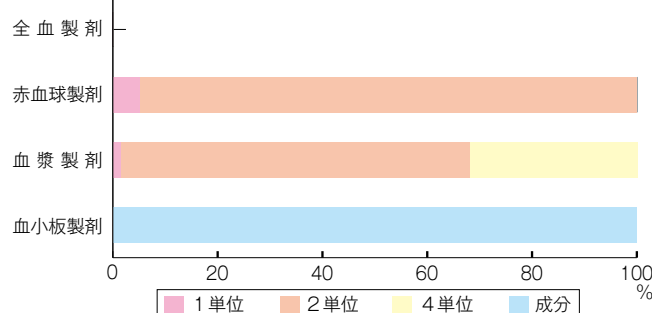
	1単位 製剤	2単位 製剤	4単位 製剤	成 分				本数合計	換算本数
				5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	2,450	50,006	0	0	0	0	0	52,456	102,462
血漿製剤	74	8,139	4,225		0	0	0	12,438	33,252
血小板製剤	0	0	0	31	15,332	15	181	15,559	157,320
合 計	2,524	58,145	4,819	31	15,332	15	181	80,453	293,034

本数合計

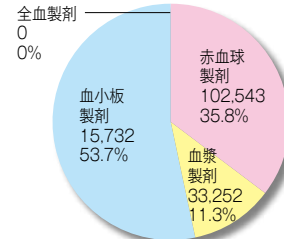


80,453本
(実本数)

献血由来別



換算本数



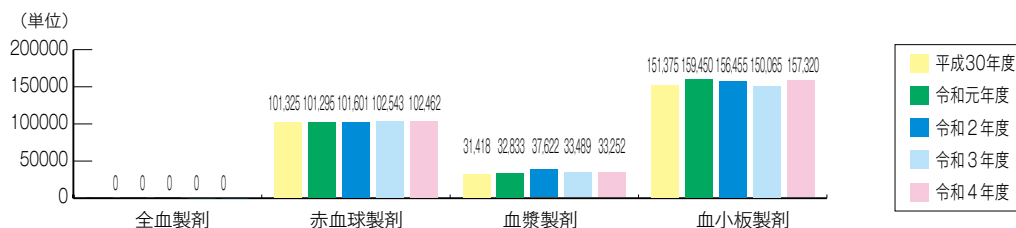
293,034本
(単位：200mL量換算)

輸血用血液製剤の推移(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成30年度	289,898	0	101,325	31,418	157,155
令和元年度	293,578	0	101,295	32,833	159,450
令和2年度	295,678	0	101,601	37,622	156,455
令和3年度	286,097	0	102,543	33,489	150,065
令和4年度	293,034	0	102,462	33,252	157,320

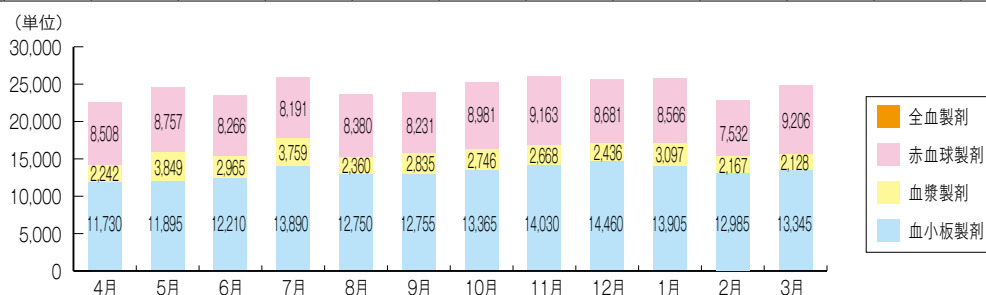
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	102,462	8,508	8,757	8,266	8,191	8,380	8,231	8,981	9,163	8,681	8,566	7,532	9,206
血漿製剤	33,252	2,242	3,849	2,965	3,759	2,360	2,835	2,746	2,668	2,436	3,097	2,167	2,128
血小板製剤	157,320	11,730	11,895	12,210	13,890	12,750	12,755	13,365	14,030	14,460	13,905	12,985	13,345
合 計	293,034	22,480	24,501	23,441	25,840	23,490	23,821	25,092	25,861	25,577	25,568	22,684	24,679



令和4年度 表彰 (団体のみ表記)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「群馬県献血功労者等表彰式」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。
(敬称略)

■厚労大臣 表彰状

陸上自衛隊 新町駐屯地
太田市立太田高等学校

■厚労大臣 感謝状

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部
日本肥糧株式会社 新町工場

■群馬県献血推進特別功労者（団体）

桐生市立商業高等学校
公益社団法人 館林青年会議所
公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
三和シャッター工業株式会社 太田ドア工場
一般財団法人 群馬県中小企業会館

■群馬県献血推進協議会長感謝状

前橋警察署
第一生命保険株式会社 太田支社
株式会社クスリのマルエ
高崎Cityライオンズクラブ
株式会社ミツバ 工機部
株式会社三興エンジニアリング
日本精密測器株式会社
株式会社環境技研
株式会社スズケン
株式会社日東システムテクノロジーズ
関越センコーロジ株式会社

■日本赤十字社社長感謝状

学校法人高崎商科大学 高崎商科大学附属高等学校

■献血団体 金色有功章
(20年以上)

前橋市農業協同組合
株式会社加藤製作所 群馬工場
株式会社 IHIエアロスペース 富岡事業所

■献血団体 銀色有功章
(15年以上)

株式会社 東和銀行
株式会社栗原医療器械店

■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)

株式会社東和銀行 情報センター
日本中央バス株式会社
ハルナプロデュース株式会社タニガワプラント
ハルナプロデュース株式会社ハルナプラント

■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)

前橋市消防局
渋川警察署

■献血推進団体 銀色有功章
(15年以上)

株式会社カインズ カインズスーパーセンター前橋吉岡店
高崎パールライオンズクラブ

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)

高崎城ライオンズクラブ

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)

伊勢崎絆ライオンズクラブ
株式会社 藤岡クロスパーク
NPO法人 Good Life Style

令和4年度迄の献血記録

項 目		年 月 日	献血者数	摘 要	備 考
開 設 以 来 延 献 血 者 数		令和5年3月末日	4,889,665人	自昭和37年11月 至令和5年3月	
開設以来母体延献血者数		平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月	
開設以来献血ルーム延献血者数		令和5年3月末日	1,175,597人	自平成5年10月 至令和5年3月	
開設以来採血車延献血者数		令和5年3月末日	3,372,546人	自昭和37年11月 至令和5年3月	
開設以来出張延献血者数		令和5年3月末日	112,612人	自平成2年4月 至令和5年3月	
年 間 最 高 人 数		昭和60年度	131,336人		
月 間 最 高 人 数		昭和60年7月	13,420人		配車台数114台
母 体 一 日 最 高 人 数		平成7年1月21日	168人		
献血ルーム一日最高人数		平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オーブニング	
出張採血一日最高人数		平成3年1月7日	230人	県 庁	
採 血 車 一 日 最 高 人 数		昭和60年11月19日	861人		配車台数5台
採 血 車 一 台 最 高 人 数		昭和55年6月13日	311人	渋 川 高 等 学 校	
市民献血一日最高人数		昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台
町民献血一日最高人数		昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町	
官庁献血一日最高人数		平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台
事業所献血一日最高人数		昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台
大学献血一日最高人数		昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台
高校献血一日最高人数		昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台
団 体 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 町	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎教会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み

令和 5 年 8 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課
発 行 群馬県赤十字血液センター
印 刷 上毎印刷工業株式会社

群馬県赤十字血液センター 〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13
電 話 027-224-2118
<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/gunma/>

 **facebook**
はじめました！

QRコードをスキャンして
facebook ページへアクセス！





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society